

「地域社会の参加・協働による保全管理」への取組状況
(沖縄島北部及び西表島)

1. 住民アンケート調査について

(1) 調査概要

今後の世界遺産登録に関する施策や取組をより地域の実情に沿ったものとするため、やんばる地域（沖縄島北部）及び西表島の居住者を対象として、平成 29 年 9 月～10 月（11 月まで回収・集計）にかけて世界自然遺産登録に関する意識調査を実施した。

沖縄島北部では配布件数 4,673 件（全戸配布）のうち 462 件（回収率：約 9.9%）、西表島では配布件数 1,258 件（全戸配布）のうち 252 件（回収率：約 20.0%）の回答を得た。

(2) 調査結果

各地域のアンケート結果において、特徴的な点を下記に記す。（詳細は A3 ページを参照）

表. アンケート結果の特徴的な点

観点	沖縄島北部	西表島
回答者の属性	年齢：50 代以上が 80%程度 職業：無職、農業、主婦の順に多い	年齢：30 代～60 代が各 20%程度 職業：観光ガイド、宿泊業、主婦、無職の順に多い
世界遺産推薦の認知	約 94%の方が認知	約 94%の方が認知
遺産登録への意識	約 63%が世界遺産登録に好意的	約 28%が世界遺産登録に好意的
地域の課題	1. 人口減少・少子高齢化 2. 経済活動の低迷 3. ノイヌ・ノネコの多さ	1. 海の自然環境の劣化 2. 山や川の自然環境の劣化 3. ゴミの散乱
世界遺産登録により期待できること	・地域の知名度や人気が高まる →約 75%の方が期待	・地域の知名度や人気が高まる →80%程度の方が期待
	・貴重な自然や動植物が守られる ・美しい自然が守られる →各々 60%以上の方が期待	・貴重な自然や動植物が守られる ・美しい自然が守られる →各々 20%程度の方が期待
	・観光関連の収益が増える →約 53%の方が期待 ・地域経済の活性化と雇用増 →約 33%の方が期待	・観光関連の収益が増える →70%程度の方が期待 ・地域経済の活性化と雇用増 →40%程度の方が期待
世界遺産登録により懸念または心配すること	・自然環境の劣化 ・生きものの交通事故増 ・希少生物の無断採取増 →60～70%程度が懸念・心配	・自然環境の劣化 ・生きものの交通事故増 ・希少生物の無断採取増 →75～95%の方が懸念・心配 「とても思う」が 50%程度
	・観光客によるゴミのポイ捨て増 ・観光案内所やトイレの不足 →70～80%の方が懸念・心配	・ポイ捨てやゴミの量の増加 ・観光施設やトイレの不足 →80～90%の方が懸念・心配 「とても思う」が 50%程度
	・交通量が増え、道路が混雑する ・観光客が生活圏に入り騒がしい →45～55%の方が懸念・心配	・バスや船が混雑する ・観光客が生活圏に入り騒がしい →80%程度の方が懸念・心配 「とても思う」が 50%程度

(3) 世界自然遺産に関する住民意識の現状と課題

■沖縄島北部

- ・アンケート回答率は、沖縄島北部では約 9.9%、西表島では約 20%であった。世界自然遺産登録への関心が低いためアンケートに回答していない無関心層が存在する可能性がある。
- ・アンケートに回答した方の多くは、世界自然遺産への推薦を既に認知していた。一方で、前述のように遺産登録に関心が低い方も多いと考えられるため、普及啓発活動を継続し、より多くの方に関心を持ってもらうことが重要。
- ・沖縄島北部では、人口減少・少子高齢化及び経済活動の低迷が大きな課題となっている。
- ・世界遺産登録により、地域の知名度が高まることが期待されているものの、地域経済の活性化や人口減少の歯止めについては、期待が薄い現状にある。したがって、世界遺産登録及びその後の管理に係る取組・事業を進めるにあたり、このような社会経済的な課題を踏まえ、観光や産業振興等に係る関係機関と連携していくことが重要と考えられる。
- ・自然環境の観点からは、多くの地域住民が沖縄島北部の自然を大切であると感じており、世界自然遺産により自然や景色が守られると期待する一方、自然環境劣化や生きものの交通事故、違法採取が増えるという懸念も同程度存在した。世界自然遺産に向けた取組においては、自然環境保全の取組を着実に進め、沖縄島北部の自然を確実に守っていくことが必要である。
- ・また、地域の課題として、ノイヌ・ノネコの多さが問題であると認識されていた。既にノイヌ・ノネコの捕獲等が進められているため、その取組を強化するとともに、成果について情報発信することにより地域住民の不安を払拭していくことが必要である。
- ・観光利用の観点からは、観光関連の収益が増えると期待する意見が半数程度あるものの、観光客によるゴミのポイ捨て増加や生活圏に入込みなどを不安視する意見がある。加えて、観光案内所・トイレ等の施設が不足するなど、観光客を受入れる体制が不十分であると認識されており、観光利用の受入れ体制を強化することが必要と考えられる。
- ・今後は、住民の期待や懸念・心配を踏まえた上で、世界遺産登録に向けた自然環境保全等の取組を着実に実施し、その具体的な取組内容や成果について情報発信を行うことが必要であると考えられる。

■西表島

- ・アンケート回答率は、沖縄島北部では約 9.9%、西表島では約 20%であった。世界自然遺産登録への関心が低いためアンケートに回答していない無関心層が存在する可能性がある。
- ・アンケートに回答した方の多くは、世界自然遺産への推薦を既に認知していた。一方で、前述のように遺産登録に関心が低い方も多いためと考えられるため、普及啓発活動を継続し、より多くの方に関心を持ってもらうことが重要。
- ・西表島では島の自然がとても大切に思われており、陸域、海域を問わず自然環境の劣化が最も重要な課題として認識されている。一方で、世界遺産登録が自然環境の保全につながるとは認識されておらず、期待が薄い現状にある。逆に世界遺産登録によって自然環境の劣化や生き物への影響が増大するという懸念・心配を持つ人が大変多い。世界自然遺産に向けた取組においては、西表島の自然環境の保全を確実に進め、地域住民の理解を得ていく必要がある。
- ・西表島の課題としては観光マナーの悪さやゴミの散乱も比較的多く挙げられており、多くの方が世界遺産登録によって観光客が増加することにより、観光施設や生活・交通インフラの不足、住環境の悪化が生じることを懸念・心配していた。西表島においては、過剰な観光利用は自然環境へ大きな影響を与えると考えられているため、自然環境の劣化への懸念・心配は観光客の増加への懸念・心配と結びついていると推測される。観光客の増加に対応したインフラの整備や自然環境の保全策の充実が求められていると考えられる。
- ・世界遺産登録により、地域の知名度が高まることや観光業が潤うことへの期待感はある程度持たれている。ただし、地域経済の活性化や農産物・加工品の売上増への期待はそれよりも低く、観光による経済効果を地域に波及させていくための取組を行うことが重要だと考えられる。
- ・上記のようなことを踏まえて、遺産登録を否定的に捉えている方の割合が高くなっていると考えられる。今後は上記のような住民の期待や懸念・心配を踏まえた上で世界自然遺産に向けた取組を着実にその改善につなげるとともに、その具体的な取組内容や成果について情報発信を行い、地域住民の理解を得ていく必要があると考えられる。

沖縄島北部における世界自然遺産登録に関する住民アンケートの結果

平成 29 年 9 月～10 月にかけて、やんばる地域（沖縄島北部）に住んでいる人を対象に、世界自然遺産への登録に対する意識調査を実施しました。

やんばる 3 村の各字に協力頂き質問票を配布し、配布件数 4,673 件（全戸配布）のうち、462 件（回収率：約 9.9%）のご回答をいただきました。

アンケートにお答えいただいた方の年齢は、60 代の方が多く、50 歳以上の方で約 8 割の回答を占めていました。また、職業は、無職の方が約 22.1%、農業の方が約 20.8%を占めました。（詳細は右表）

＜アンケートにお答えいただいた方の特徴（属性情報）＞

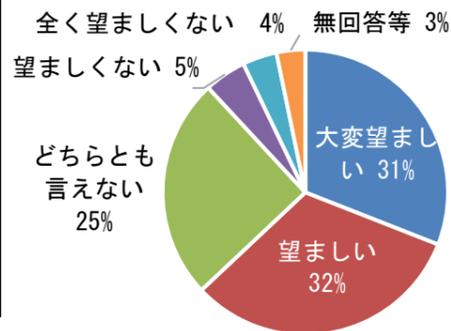
性別	回答数	比率(%)	職業	回答数	比率(%)
男性	218	47.2	無職	102	22.1
女性	207	44.8	農業	96	20.8
無回答等	37	8.0	主婦	77	16.7
年齢	回答数	比率(%)	公務員	27	5.8
10代	3	0.7	建設業・製造業	25	5.4
20代	6	1.3	宿泊業	13	2.8
30代	41	8.9	小売・卸売業	8	1.7
40代	36	7.8	観光業（ガイド以外）	7	1.5
50代	84	18.2	飲食業	6	1.3
60代	179	38.7	教育機関	5	1.1
70代以上	107	23.2	交通・運輸業	4	0.9
無回答等	6	1.3	林業	3	0.6
			観光ガイド	3	0.6
			その他	68	14.7
			無回答等	18	3.9

世界自然遺産に関する認知度・意識

世界自然遺産への推薦については、既に多くの方がご存知で、約 63%の方が世界遺産への登録を好意的に捉えていることが分かりました。一方、世界遺産登録について、「どちらとも言えない」と答えた方が約 25%を占めていました。

(認知事項)	知っていた	知らなかった	無回答等
やんばるが世界自然遺産に推薦された	94.4%	3.2%	2.4%
奄美大島、徳之島、西表島と一緒に世界遺産に推薦された	76.4%	21.4%	2.2%
やんばるの自然に世界的に貴重な価値がある	89.6%	8.2%	2.2%

やんばる地域が世界遺産になることについてどう思うか

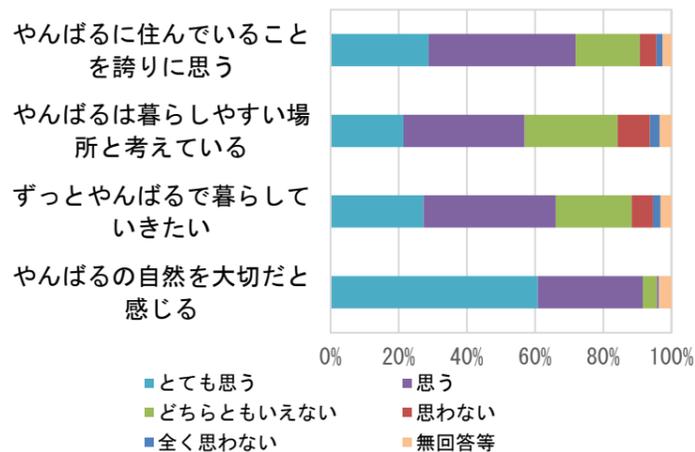


やんばるにおける暮らしや自然についての意識、重要課題についての認識

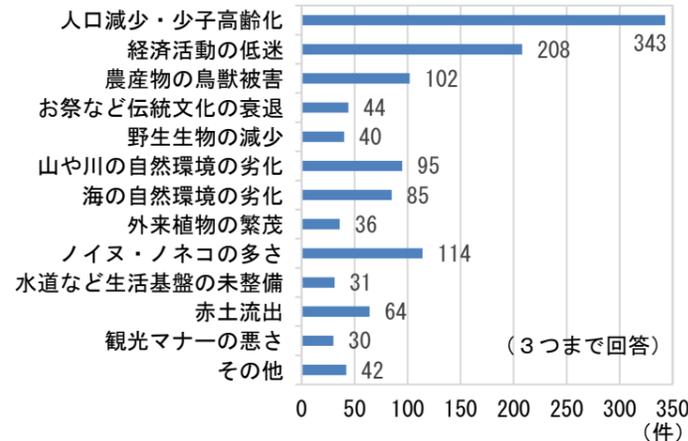
やんばるでの暮らしに関する意識では、7 割以上の方がやんばるに住んでいることを誇りに思っていることが分かりました。また、やんばるの自然を大切であると、9 割以上の方が感じていました。

やんばるの抱える課題として、人口減少・少子高齢化、経済活動の低迷が重要課題とする意見が多く、続いて、ノイヌ・ノネコの多さが続きました。「その他」の回答には、基地問題を挙げる意見が多く見られました。

やんばるにおける暮らしや自然についての意識



やんばるの抱える課題のうち、重要な課題は何か



地域活動や保全活動、講演会等への参加状況

この 1 年間での地域の活動や自然を守るための活動などへの参加状況として、ゴミ拾いなど地域の美化活動へ参加された方が多い傾向が見られました。自然等の観察会への参加は約 19.9%、世界遺産登録に関する講演会や沖縄島北部部会には約 18.8%、の方が参加していました。林道のパトロール等や外来種駆除に参加した方はそれぞれ 9.7%、6.5%であり、積極的な保全活動に参加している人も一定数いました。

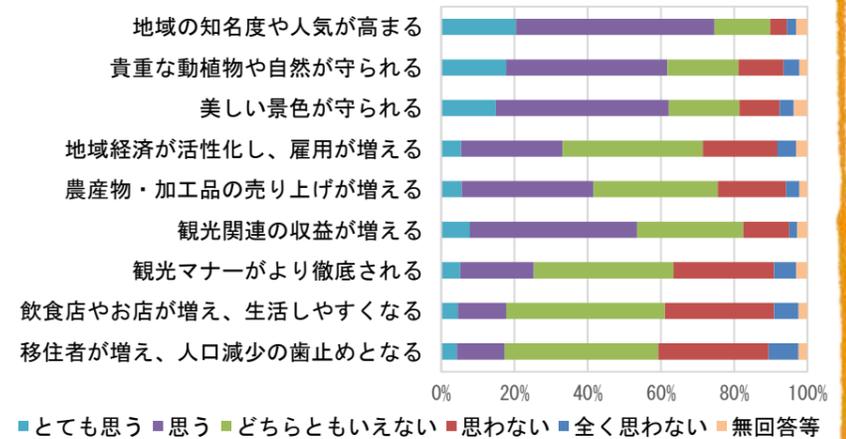
活動内容	回答数	比率(%)
ゴミ拾いなど地域の美化活動	291	63.0
自然や生きものの観察会	92	19.9
林道のパトロールや巡視	45	9.7
外来植物の抜き取り作業など 外来種駆除	30	6.5
世界遺産登録に関する講演会や 沖縄島北部部会	87	18.8

※比率は母数をアンケート回収数（462）として便宜的に算出したもの。この母数には無回答者が含まれるため、実際の比率はより高くなる。

やんばる地域が世界自然遺産に登録された場合に期待できること

世界遺産登録に期待できることとして、約 74.7%が地域の知名度や人気が高まると考えていることが分かりました。貴重な自然や動植物が守られること、美しい景色が守られると期待できると回答した方が 6 割を超え、自然環境保全への期待がある程度あると考えられます。

やんばるが世界自然遺産へ登録された場合に期待できること

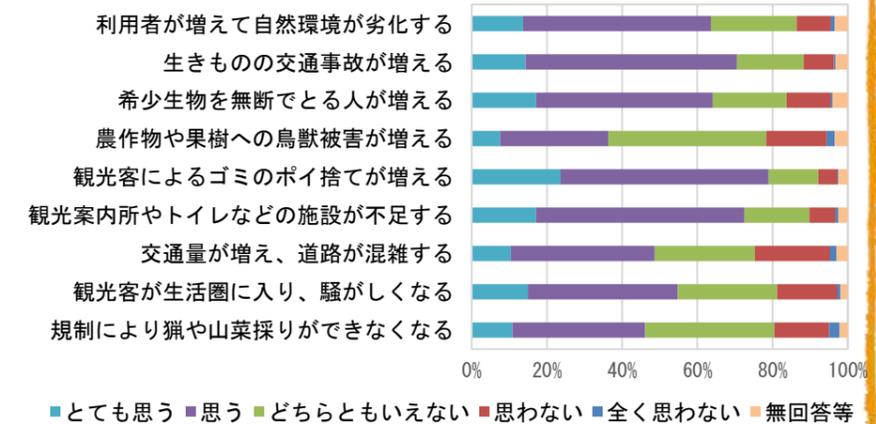


一方、地域経済活性化や、移住者増加・人口減少の歯止めになると思う方は、それぞれ約 33.1%、約 17.3%と、世界遺産登録が地域の重要課題の改善につながることは認識されていませんでした。

やんばる地域が世界自然遺産に登録された場合に懸念または心配すること

世界遺産登録された場合に懸念または心配することとして、自然環境の劣化や生きものの交通事故が増えること、希少生物の違法採取が増えること、それぞれ 6 割を超える結果となりました。

やんばるが世界自然遺産へ登録された場合に懸念または心配すること



まとめ：やんばる地域の世界自然遺産への登録に対する意識調査の結果、約 63%の方が世界遺産登録を好意的に捉えていることが分かりました。やんばる地域の特に重要な課題は、人口減少・少子高齢化と経済活動の低迷であるものの、世界自然遺産への登録はこの地域の課題解決につながると認識している人は少ない状況であることも明らかになりました。また、大多数の地域の方がやんばるの自然を大切に感じており、6 割以上の方が世界遺産登録により自然や生きもの、景色が守られることを期待する一方、自然環境劣化や生きものの交通事故、違法採取が増加することを懸念していました。世界遺産登録に向けた取組を自然環境の保全や地域の活性化につなげ、地域の課題を解決する糸口にしていくことが重要です。

西表島における世界自然遺産登録に関する住民アンケートの結果

平成 29 年 9 月～11 月にかけて、西表島に住んでいる人を対象に、世界自然遺産への登録に対する意識調査を実施しました。

西表島の全世帯（1,258 件）に質問票を配布し、252 件（回収率：約 20.0%）のご回答をいただきました。

アンケートにお答えいただいた方の年齢は、30 代～60 代の方が多く、職業は、観光ガイドの方が最も多く約 13.9%、宿泊業の方が約 11.9%の比率を占めました。（詳細は右表）

＜アンケートにお答えいただいた方の特徴（属性情報）＞

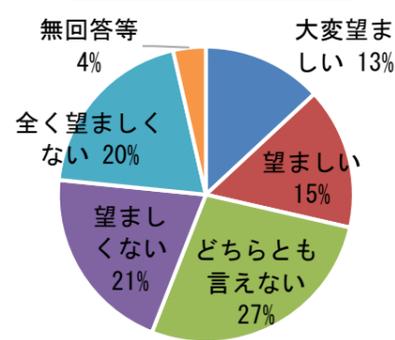
性別	回答数	比率(%)	職業	回答数	比率(%)
女性	120	47.6	観光ガイド	35	13.9
男性	114	45.2	宿泊業	30	11.9
無回答等	18	7.1	主婦	26	10.3
			無職	26	10.3
年齢	回答数	比率(%)	観光業 (ガイド以外)	回答数	比率(%)
10代	0	0.0	観光業 (ガイド以外)	21	8.3
20代	12	4.8	農業	18	7.1
30代	55	21.8	公務員	14	5.6
40代	55	21.8	飲食業	12	4.8
50代	44	17.5	教育機関	11	4.4
60代	57	22.6	交通・運輸	9	3.6
70代以上	29	11.5	小売業	6	2.4
無回答等	0	0.0	その他	30	11.9
			無回答等	14	5.6

世界自然遺産に関する認知度・意識

西表島の世界自然遺産への推薦については、既に多くの方がご存知でした。遺産登録については、好意的な意見が約 28%ある一方で、好意的でない意見も約 41%あり、現状では期待もある一方で不安も多いことがわかりました。

(認知事項)	知っていた	知らなかった	無回答等
西表島が世界自然遺産に推薦された	94.4%	4.4%	1.2%
奄美大島、徳之島、沖縄島北部と一緒に世界遺産に推薦された	85.3%	13.1%	1.6%
西表島の自然に世界的に貴重な価値がある	93.7%	5.2%	1.2%

西表島が世界遺産になることについてどう思うか

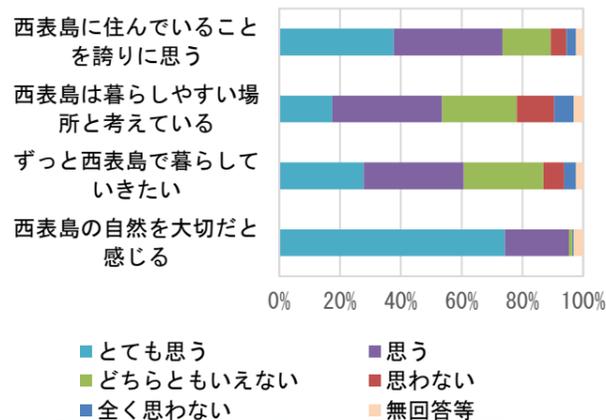


西表島における暮らしや自然についての意識、重要課題についての認識

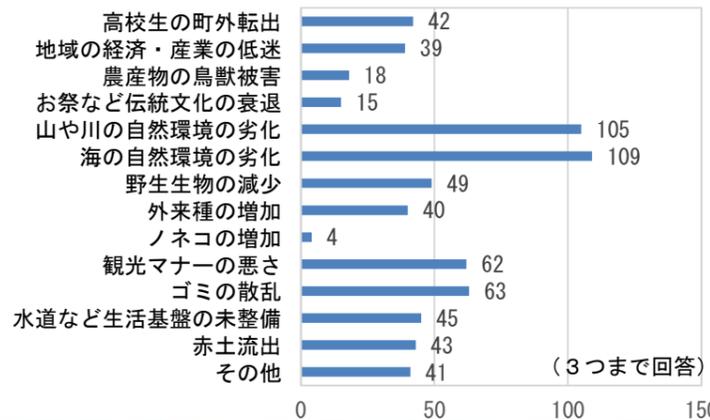
西表島での暮らしに関する意識では、70%以上の方が西表島に住んでいることを誇りに思っていることがわかりました。また、西表島の自然を大切であると、90%以上の方が感じていました。

西表島の抱える課題として、山や川、海の自然環境の劣化が特に重要な課題であるとする意見が最も多く、続いて、ゴミの散乱、観光マナーの悪さも比較的多く挙げられました。「その他」の回答には、観光客の増加による環境や生活への影響、医療問題といったことが挙げられていました。

西表島における暮らしや自然についての意識



西表島の抱える課題のうち、重要な課題は何か



地域活動や保全活動、講演会等への参加状況

この 1 年間での活動参加状況として、公民館活動や環境美化に関する活動に参加された方が多い傾向が見られました。世界遺産に関する講演会や会議等には約 38%の方が参加していました。観察会や保全活動に参加する方も、選択肢の中では少ないものの一定数みられました。

活動内容	回答数	比率※(%)
集落の美化活動や公民館活動	197	78.2
県道脇の草刈り	136	54.0
ビーチクリーン活動	113	44.8
世界遺産に関する講演会や西表島部会	96	38.1
自然や生きものの観察会	54	21.4
やまねこパトロールや交通安全運動	29	11.5
外来植物や外来カエル等の駆除	16	6.3

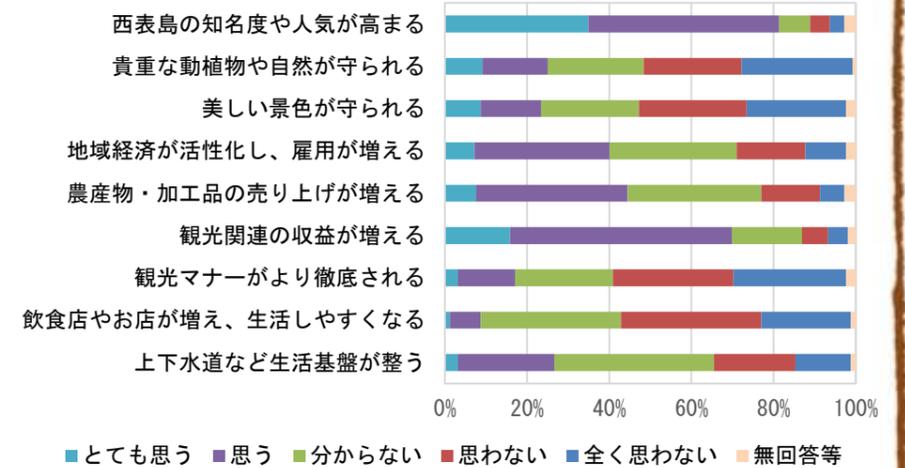
※比率は母数をアンケート回収数（252）として便宜的に算出したもの。
この母数には無回答者が含まれるため、実際の比率はより高くなる。

西表島が世界自然遺産に登録された場合に期待できること

期待できることとして、80%以上の方が地域の知名度や人気が高まると考えていることがわかりました。観光関連の収益が増えること（70%程度）が次に多く、観光業を中心に地域経済が潤うことへの期待はある程度持たれていると考えられます。

一方で、貴重な自然や動植物が守られる、美しい景色が守られると回答した方は 30%に満たず、世界遺産登録が自然環境や景観の保全につながることは認識されていませんでした。

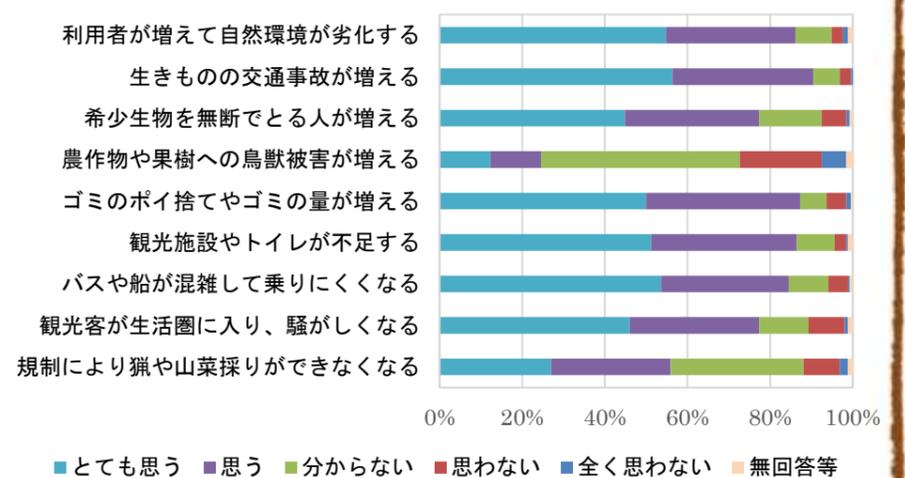
西表島が世界自然遺産へ登録された場合に期待できること



西表島が世界自然遺産に登録された場合に懸念または心配すること

懸念または心配することについては、ほとんどの項目でそう思う方の割合が軒並み高く（80%程度）、さらに、50%程度の方は「とても思う」と回答していました。利用客の増加と関連した生き物や自然環境への影響、インフラの不足、生活への影響など、幅広く大きな懸念が地域住民に持たれていることが伺えます。猟や山菜採りへの規制についての懸念・心配も 50%程度ありました。

西表島が世界自然遺産へ登録された場合に懸念または心配すること



まとめ：西表島の住民にとって島の自然はとても大切に思われており、陸域、海域を問わず自然環境の劣化が最も重要な課題として認識されていました。世界自然遺産への登録については、観光業を中心に地域経済が潤うことへの期待感はある程度持たれている一方で、登録が自然環境の保全につながることは認識されておらず、逆に観光利用の増加等に起因する自然の劣化、インフラの不足、生活への影響などの懸念・心配が多く、遺産登録を否定的に捉えている方の割合が高くなっています。世界自然遺産に向けた取組においては、西表島の自然環境の保全を確実に進め、地域住民の皆様の理解を得ていく必要があります。

2. 普及啓発に関連する事業の取組状況と次年度の予定について

(1) 沖縄島北部

行動計画の 事業項目	実施主 体	事業名	対象地	事業概要 <関係する会議体>	平成 29 年度実施内容	平成 30 年度事業内容 (案)
					6) 地域社会の参加・協働による保全管理	
5 普及啓発 活動の実 施	環境省	地域の子供たちへの 普及啓発活動	沖縄島北部 3 村全域を 含む沖縄県 全域	子供たちに地域の自然・ 文化に興味をもってもら うため、小・中学校の授 業における環境学習を充 実させる。また、辺土名 高校の環境科において は、世界遺産教育を念頭 においたカリキュラムの 導入を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ○「やんばるの自然と遊ぶワークブ ック」国頭村教職員対象研修を実 施 ○地元の保育園及び学童に対して、 世界遺産に関する簡単な講話を実 施 ○国頭村及び東村内の小学校と協働 でヤンバルクイナの生息状況調査 を実施 ○小・中学校のクラブ活動講師、校 外学習講師、野外授業講師として 普及啓発を実施 ○各村教育委員会と自然体験活動協 議会との連携に向けた調整を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○「やんばるの自然と遊ぶワークブ ック」国頭村教職員対象研修を実 施 ○国頭村及び東村内の小学校と協働 でヤンバルクイナの生息状況調査 を実施 ○小・中学校のクラブ活動講師、校 外学習講師、野外授業講師として 普及啓発を実施 ○各村教育委員会と自然体験活動協 議会との連携に向けた調整を実施

行動計画の 事業項目	実施主 体	事業名	対象地	事業概要 ＜関係する会議体＞	平成 29 年度実施内容	平成 30 年度事業内容（案）
	環境省	地域住民への普及啓発活動	沖縄島北部 3 村全域を含む沖縄県全域	国立公園指定、世界自然遺産登録に向けての制度内容、進捗等の周知を図る。また、世界自然遺産の保全と利活用の推進を図る。		
	沖縄県（自然保護課）	世界自然遺産普及啓発委託業務	沖縄島北部 3 村全域を含む沖縄県全域	沖縄島北部や西表島の遺産価値を県内外に PR するための映像コンテンツや、その他の普及啓発媒体を作成・提供し、地域住民を始めとする一般市民への普及啓発を図り、世界自然遺産登録に向けた機運を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ○一般県民に加えて遺産推薦地の住民へ重点を置き、普及啓発を実施していった。（フォーラム開催、写真展開催、広報誌掲載、地域イベント出展等） ○前年度に引き続き既存ツールを利用した普及啓発を実施するとともに、新デザインポスター、マグネットステッカー及びのぼりの作成、SNS 及び 4 町村広報誌を活用した普及啓発等を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○世界遺産委員会登録発表パブリックビューイングの開催（鹿児島県連携） ○登録記念イベントの開催 ○パンフレットの遺産登録版への更新 ○4 町村広報誌を活用した普及啓発 ○モノレールラッピングを活用した一般県民、観光客等への普及啓発

行動計画の 事業項目	実施主 体	事業名	対象地	事業概要 ＜関係する会議体＞	平成 29 年度実施内容	平成 30 年度事業内容（案）
	沖縄県 （自然 保護課）	地域部会運営支援業 務	沖縄島北部 3村	地域部会における検討状 況や世界遺産登録に向け た動きなどについて住民 に情報発信を行うととも に、アンケート調査を行 い住民意識を把握する。	○沖縄島北部 3 村の住民を対象とし て遺産登録前の意識調査（アンケ ート）を実施した。 ○「やんばる世界遺産だより」を発 行し、地域住民への情報発信を行 った。（1 回発行済、3 月に次号発 行予定）	○沖縄島北部 3 村の住民を対象とし て遺産登録可否決定後の意識調査 （アンケート）を実施する。 ○「やんばる世界遺産だより」を発 行し、地域住民への情報発信を行 う。
	国頭村 （世界 自然遺 産対策 室）	国立公園、世界自然 遺産推薦地の普及啓 発	国頭村全域	国立公園指定、世界自然 遺産登録に向けての制 度、進捗等の理解醸成、 周知を図る	○のぼりや木製バッジ、懸垂幕等の 製作及び村広報誌やホームペー ジを活用し、世界自然遺産登録に 向けた機運を醸成した。 ○3 村世界自然遺産推進協議会によ る保全の取り組みを実施した。	○グッズ等の製作及び村広報誌やホ ームページを活用し普及啓発を図 る。
		琉球大学地域連携事 業	国頭村全域	役場職員及び関係機関の 職員を対象に、世界自然 遺産に係る研修等を行 い、啓発する。	○3 村役場職員研修会及び 3 村長に よるパネルディスカッションを行 った。	○役場職員及び関係機関の職員を対 象に、世界自然遺産に係る研修等 を行う。
	大宜味 村 （企画 観光課）	村内への周知及び広 報等	大宜味村全 域	世界自然遺産登録関連の 取り組みについて、地域 住民へ普及啓発を行う。	県作成のシール及びクリアファイル 等を各字に配布、村広報誌に世界 自然遺産に向けた取り組みを掲載し た。	村広報誌や村ホームページにて世界 自然遺産登録に向けた取り組み等を 掲載。 登録可否決定後は、その旨村民へ周 知を行う。

行動計画の 事業項目	実施主 体	事業名	対象地	事業概要 ＜関係する会議体＞	平成 29 年度実施内容	平成 30 年度事業内容（案）
	東村(企 画 観 光 課)	・ 東村 P R 事業 ・ 村内外への周知及 び広報等	東村全域	・ 機運醸成用の村民参加 型ポスター作成及び掲 示。 ・ 世界自然遺産登録関連 の取り組みについて、 地域住民へ普及啓発を 行う。	○ 広報誌やホームページ、横断幕、 幟、村や県が作成した機運醸成用 ポスターの掲示、県作成機運醸成 用パンフレット、クリアファイル 等の各世帯への配布。 ○ 小中学校への機運醸成用クリアフ ァイル、パンフレットの配付。 ○ 村外での普及啓発活動。 ○ 村立博物館での普及啓発イベン トの実施。 ○ 祭りでの普及啓発活動。	○ 広報誌やホームページ、幟、横断 幕の設置。 ○ 村立博物館での普及啓発イベン ト。 ○ 祭りでの普及啓発活動。 ○ 関係機関との連携。 ○ 村外での普及啓発活動。
	琉球大 学 与 那 フ ィ ー ル ド	オープンフォレスト	与那フィー ルド（演習 林・里山研 究園）	2年に1度、一般の方を 対象に演習林の森林を観 察していただくイベント を開催している。	（平成 29 年度は実施しない。次回は 平成 30 年度。）	一般の方を対象に、与那フィー ルドの自然を観察し、教育研究活動な どを紹介するイベントを開催する。
	琉球大 学 与 那 フ ィ ー ル ド	琉球大学公開講座	与那フィー ルド（演習 林・里山研 究園）、国頭 村森林公園 等	琉球大学の公開講座を 与那フィールド等を使用 して開催している。プロ グラムの内容によっては、 国頭村森林組合など地 域の団体の協力を得て 実施している。	森林および林業地の見学、国頭村 森林組合の工場見学、育林体験、木 工体験などのプログラムを提供した。	森林および林業地の見学、国頭村 森林組合の工場見学、育林体験、木 工体験などのプログラムを盛り込んだ 講座を提供する。
	琉球大 学 与 那 フ ィ ー ル ド	各種研修・実習・研 究等の受け入れおよ び実施	与那フィー ルド（演習 林・里山研 究園）	森林や施設を、学内に 限らず他大学や他団体の 研修・実習等にも広く使 ってもらい、沖縄島北部 の自然に関する普及啓 発や意識の向上に寄与 する。	他大学生を受け入れる「公開森林 実習」を開講した。辺土名高校環境 科の「宿泊学習」や、沖縄県立総合 教育センターによる理科教員の「野 外実習」などを受け入れた。	「公開森林実習」は継続的に開講 する。その他は要望に応じて受け入 れる予定である。

行動計画の 事業項目	実施主 体	事業名	対象地	事業概要 ＜関係する会議体＞	平成 29 年度実施内容	平成 30 年度事業内容（案）

(2) 西表島

行動計画の 事業項目	実施主 体	事業名	対象地	事業概要 ＜関係する会議体＞	平成 29 年度の実施内容	平成 30 年度事業内容（案）
6) 地域社会の参加・協働による保全管理						
3 地域住 民、観光客等 への普及啓 発・教育の推 進	環境省	イリオモテヤマ ネコ普及啓発イ ベント	西表島	島内の小中学生を対象として、イリオモテヤマネコの生態や保護活動の取組について紹介し、保護の意識向上を目的にしたイベントを開催。	○西表島の東部と西部で各1回イベントを開催し、70人が参加。 ○ポスターやパンフレットの作成及び掲示・配布、その他交通事故防止に関する普及啓発を実施。	○夏休み等の長期休暇を利用して野生生物保護センター内にてイベントを開催予定
	竹富町 (政策推 進課) 環境省	地元住民への説 明会	西表島	世界自然遺産にかかる説明会を集落毎に開催し、質疑や意見交換をおこなう。	○西表島島内の各公民館(14地区)で住民説明会を開催し、世界自然遺産の概要を説明するとともに、意見交換を行った。	○世界自然遺産登録の動向に合わせて適宜住民説明会を開催し、新たな情報提供を行う。
	林野庁西 表森林生 態系保全 センター	森林保全管理等	西表島内の 小中学校	毎年「自然環境教育のための連絡会」を開催し、「西表島での自然環境教育カリキュラム」を活用した自然環境教育の実施状況及び今後の活用計画について報告。	○船浦・大原中学校及び白浜小学校の学校行事を支援 ○大原小学校へ新しく赴任した先生への西表島の森林環境についての研修	○船浦・大原中学校及び白浜小学校の学校行事を支援 ○小・中学校へ新しく赴任した先生への西表島の森林環境についての研修
	沖縄県 (自然保 護課)	世界自然遺産普 及啓発委託業務	西表島を含 む沖縄県全 域	沖縄島北部や西表島の遺産価値を県内外にPRするための映像コンテンツや、その他の普及啓発媒体を作成・提供し、地域住民を始めとする一般市民への普及啓発を図り、世界自然遺産登録に向けた機運を高める。	○一般県民に加えて遺産推薦地の住民へ重点を置き、普及啓発を実施した。(フォーラム開催、写真展開催、広報誌掲載、地域イベント出展等) ○前年度に引き続き既存ツールを利用した普及啓発を実施するとともに、新デザインポスター、マグネットステッカー及びのぼりの作成、SNS及び4町村広報誌を活用した普及啓発等を行った。	○世界遺産委員会登録発表パブリックビューイングの開催(鹿児島県連携) ○登録記念イベントの開催 ○パンフレットの遺産登録版への更新 ○4町村広報誌を活用した普及啓発 ○モノレールラッピングを活用した一般県民、観光客等への普及啓発

行動計画の 事業項目	実施主 体	事業名	対象地	事業概要 ＜関係する会議体＞	平成 29 年度の実施内容	平成 30 年度事業内容（案）
	沖 縄 県 （自然保 護課）	地域部会運営支 援業務	西表島	地域部会における検討状況 や世界遺産登録に向けた動 きなどについて住民に情報 発信を行うとともに、アン ケート調査を行い住民意識 を把握する。	○西表島住民を対象として遺産登録 前の意識調査（アンケート）を実 施した。 ○「西表島世界遺産だより」を発行 し、地域住民への情報発信を行っ た。（1回発行済、3月に次号発行 予定）	○西表島住民を対象として遺産登録可 否決定後の意識調査（アンケート）を 実施する。 ○「西表島世界遺産だより」を発行し、 地域住民への情報発信を行う。
	西表島エ コツーリ ズム協会	西表島の文化を 紹介したパンフ レットの配布と ウェブサイトの 運営	西表島全域	西表島の自然の保護と持続 的な利用のために不可欠な 文化についての普及啓発を 行う。	○「文化と旅する西表島」パンフレッ トの配布を行った。 ○「文化と旅する西表島」ウェブサイ トの運営を行った。	○「文化と旅する西表島」パンフレッ トの配布を行った。 ○「文化と旅する西表島」ウェブサイ トの運営を行った。